



第25号

- 介護保険の枠外事業のあり方を探る  
ひょうごん福祉ネット 発足
- 4 KECアドバイザー派遣事業がスタート
- 5 「小規模保育シンポジウム」から
- 6 みみづく舎だより
- 7 佐々木康哲さんを偲ぶ
- 8 KEC/みみづく舎カレンダー  
ご入会・ご寄付等お礼

特定非営利活動法人 市民活動センター神戸 Kobe Empowerment Center(KEC)  
〒650-0022 神戸市中央区元町通6-7-9 秋葉ビル TEL:(078)367-3336 FAX:367-3337  
E-mail kiroku@kobekec.net URL http://www.kobekec.net

NPO支援センターが曲り角にあるということを最近よく耳にする。いわく、経営が苦しい、整理統合が計画されている、行政の委託事業等でやっと持ちこたえている、云々。そもそもの原因は、NPOのブーム期に支援センターがつぐられ過ぎたことにある。国際交流がもてはやされた時もうだつたが、市や都道府県が競うようにして支援センターを設立した結果、全体として過剰になり個々のセンターが十分な規模に発展する余地がなくなってしまった。民間機関を圧迫することにも繋がった。今からでもいい、「民にできることは民に」という原則を貫き、自治体の財政負担を軽減すると同時に、民間のNPO支援センターが発展するスペースを残すようにするべきだ。

多くの支援センターが、財政基盤や支援力が十分に整わないままスタートしたこと、今日の苦境の遠因となっているようと思われる。財政基盤について言えば、「顧客」たるNPOのほとんどがサービスの対価を負担する力が乏しいために、第三者わけても行政の支払いに頼ることになつたが、行政自体もコスト削減要請が厳しく、委託金等の金額が抑えられることになつた。その結果、これらの主体すべてが「利益なき

NPO支援センターが曲り角にあるということを最近よく耳にする。いわく、経営が苦しい、整理統合が計画されている、行政の委託事業等でやっと持ちこたえている、云々。

そもそもの原因は、NPOのブーム期に支援センターがつぐられ過ぎたことにある。国際交流がもてはやされた時もうだつたが、市や都道府県が競うようにして支援センターを設立した結果、全体として過剰になり個々のセンターが十分な規模に発展する余地がなくなってしまった。民間機関を圧迫することにも繋がった。今からでもいい、「民にできることは民に」という原則を貫き、自治体の財政負担を軽減すると同時に、民間のNPO支援センターが発展するスペースを残すようにするべきだ。

## 専門性と先行投資を

できる。

日頃の忙しさの中で専門性を高めるためには、思い切った先行投資を行わなくてはならない。NPO法10年の節目を迎えた今、KECを含めて各支援センターが検討すべきことである。

繁忙ならぬ「展望なき繁忙」に陥ってしまった。

では、支援センターとしてはどうしたらよいのか。

日本福祉大学通信教育部 教授  
市民活動センター神戸理事 雨森 孝悦

## 介護保険の枠外事業のあり方を探る

# 「ひょうごん福祉ネット」発足

あなた自身や家族が高齢になり、生活していくのにサポートが必要となったとき、そのサービスは誰が担ってくれますか？介護保険が2000年に登場したとき、これからの福祉は地域社会が担うんだ、と言われました。たしかに、家族だけ（しかも圧倒的に女性）にその担い手が求められた旧来の状況から比べると、ホームヘルプのサービスを受けることは普通のことになってきました。でも、ご存じのように介護保険の利用は「要介護度」の判定によって利用量が決められ、必ずしも生活に十分なサービスが受けられるわけではありません。

一方、介護保険制度の始まる前から、地域では住民同士の支え合いとしての福祉サービスが行われてきました。神戸・阪神地域ではとくにあの震災の後、各地にそうしたグループが誕生しました。しかしボランティアから始まつたこれらの活動を、事業として成り立たせるのは容易ではありません。

介護保険制度だけでは地域福祉を十分に担えなくても、住民同士の支え合いが持続可能なしくみとして事業化できれば、両者が相互補完しあって本当に地域に必要な福祉サービスが提供でき、ひとは安心して老を迎えることができるのではないか。そんな思いをもって、兵庫県南部で福祉事業に取り組むNPOが手を携えていくことになりました。

今年6月8日、三宮の勤労会館に80人近い参加者を集め、「地域に必要なもう一つの公共・NPO」と題する講演会が開催された。主催は「ひょうごん福祉ネット」、講師はNPOによる福祉事業の先進地・愛知県知多半島から「特地域福祉サポートちた」の代表理事・松下典子さん。松下さんからは歯切れよく熱心に耳を傾けている聴衆のほとんどは現に福祉活動を担当している人たちであり、まさにわが意を得たりという思いと、それがなかなかできないのよ、という思いが交錯していたことだろう。

### 福祉事業の先進事例に学ぶ



熱心な参加者であふれた設立記念講演会

06年の秋、福祉に携わるNPO十団体ほどが情報交換を目的に集まつたところ、事業内容・対象、料金体系（介護制度事業と制度外事業とのすみ分けまたは組み合わせ、人材の確保、などなど話題は尽きず、あつという間に3時間余りが過ぎてしまつた。お互に顔と名前は知つていてもそれほどまとまつたかたちでないに顔と名前は知つていてもなかつたのだ。

同業者ではあるが地域が違えば競合相手とはならず、お互いの手の内を見せ合うと共に、自分の悩みも多いことがわかつた。

### 「枠外」事業とは何か ——現状と課題——

（＊）HYOGON=ひょうご市民活動協議会、県内NPO・NGOの緩やかなネットワーク。ここへの参加団体の中から「福祉ネット」の気運が高まり、分科会という位置づけで活動が始まつたためこの命名となつた（正式発足時に「ひょうごん福祉ネット」と改名）。

### 【設立の経緯】

2006年9月 第1回福祉（介護）系の活動を行うNPOの連絡ミーティング開催（参加11名）。以後概ね毎月1回、会場持ち回りでミーティング開催  
2007年2月 知多半島福祉系NPO視察ツアーアクティビティ実施、「地域福祉サポートちた」松下典子さんに会う  
2008年3月 正式発足  
2008年6月 総会・設立記念講演会「地域に必要なもう一つの公共・NPO」開催  
2008年7月 学習会「ケアマネジメントにおける枠外サービスの現状と課題」開催

誰かの抱える疑問について他の誰かがその場で答えて解決できるなど、じつに有意義な集まりとなつたのである。団体の責任者で忙しい人ばかりであるにもかかわらず、翌月の再会を約してようやく記念すべき第1回ミーティングはお開きとなつた。

これを皮切りに、おもに高齢者対象の福祉事業、中でも介護保険の制度外事業に取り組むNPOの情報交換と相互研鑽の場として、ほぼ月1回のペースで「HYOGON福祉ネット（以下、福祉ネットと表記）」（＊）の活動が始まった。

（＊）HYOGON=ひょうご市民活動協議会、県内NPO・NGOの緩やかなネットワーク。ここへの参加団体の中から「福祉ネット」の気運が高まり、分科会とい

での家事援助や入浴介助などがあるが、これは保険が利用できる人であれば利用した上で持ち時間を超える部分、あるいはそもそも「自立」判定を受けたが援助が必要な人へのサービスなどである。さらに、介護保険では提供されない、

家具の移動、衣服の入れ替え、話し相手、ゴミ出し、草抜き・庭の手入れ、ペットの世話、入院時の介助などなど、団体によって少しずつ異なるが、これらには日常不可欠なもの多岐にわたるサービスがある。とそうでもないものとが含まれるが、

QOLの向上という観点で言えば必要なものだろう。

これらのサービスは介護保険と同様、依頼を受けたコーエイネーターが登録された活動者（枠内事業で働くヘルパーと区別して「ワーカー」と呼ばれることが多い）の中から適任者を選び、派遣することになるが、介護保険と大きく異なるのは、介護保険と大きく異なるのはお力のしくみである。介護保険なら利用者は1割負担、つまり事業所にはその9倍が介護報酬として支払われるが、制度外では利用料が収入のすべて。ワーカーとコーエイネーターの人事費、

他の事業局経費を賄つて事業を成り立たせるには、介護保険に比べて相当高い利用料を利用者に負担してもらわなければならなくなってしまう。それでは「助け合い」の精神から外れるし、何より利用者が離れてしまう。

クの輪を広げ、利用者はもとより行政や企業も含めた地域全体にその存在意義を訴えていくことが活動の第一歩だ。そして、「こんな地域に住みたい」という夢の実現をめざす。

**代表・日埜さんのお話**  
介護保険制度の改正に次ぐ改正の中、ようやく制度枠外事業が実現しました。十数年前から、住民同士支えあう福祉サービスを行なうNPOがそれぞれ自発的に個性あふれる活動をしてきましたが、介護保険との連携、非営利活動の運営、協力者の確保など自団体だけでは解決できない問題について情報交換ができるネットワークの必要性を感じていました。HYOGON活動の中では、1年余りの準備期間を経て「ひょうごん福祉ネット」として活動を始めた。それが自分たちの団体の活動を持ちながらの活動ですが、枠外事業が社会的に認められ継続するためには力を合わせネットワークの輪をひろげ、「年をとっても住み良いコミュニティづくり」を目指したいと思っています。

## (構成団体)

【神戸市】(特)ケアット、(特)神戸障害者自立支援福祉協会、(特)COM総合福祉研究所、(特)市民活動センター神戸、(特)東灘地域助け合いネットワーク、(特)ひょうご・まち・くらし研究所、(特)福祉ネット星が丘、(特)福祉ネットワーク西須磨だんらん、(特)ゆいまーる神戸、(特)リーフグリーン、わくわく神戸

【明石市】(特)市民サポートセンター明石

【三木市】(特)アイアイネット

【西宮市】(特)都市生活コミュニティセンター

【川西市】(特)さわやか北摂

【淡路市】(特)淡路島ファミリーサポートセンターまるく

(このほか、個人会員5名、賛助会員6名)

## (役員)

代表 日埜 昭子 (特)福祉ネットワーク西須磨だんらん 理事・事務局長  
副代表 田坂 美代子(事務局長) (特)市民サポートセンター明石 代表理事  
村山 メイ子(広報) (特)東灘地域助け合いネットワーク 理事長  
吉本 加津子(会計) (特)リーフグリーン 理事長  
監事 山口 一史 (特)ひょうご・まち・くらし研究所 常務理事

\*KECは立ち上げまでの事務局を担い、現在はサブの「神戸事務局」を担っている。

現在は1時間八〇〇円／二〇〇円の利用料を受け取り、そのうちの6～8割程度をワーカーに支払い、残りを事務局経費としているところが多い。したとすると、事務局に残るの

は5～10万円程度にすぎない。二五〇時間というのは、現在の福祉ネット参加団体の平均的な月間利用時間数である。

ボランティア精神で始まった助け合いの事業なので、これまで携わる人々が無理をして何とかやってきた。しかしサービスを提供する側も齢を重ね、家庭の事情を抱え、無理が利かないくなっていく。利用する人々にとって必要なサービスを提供していく自負はあるから、何とかしてこれを継続できるしくみに変え、次世代に引き継いでいかなければならぬ。

ここに福祉ネット参加団体共通の悩みがある。

## 福祉ネットのめざすもの

「地域福祉サポートちた」の松下さんは、枠外サービスの重要性を強調しつつ、企業や行政との連携、さらには社会ビジョンを描くことの必要性を説いた。「現場からは10年後の社会が見える」、だから発信していかなければ、と。知多でも試行錯誤があつたことを述べ、仲間として激励してくださいました。

認められ継続するためには力を合わせネットワークの輪をひろげ、「年をとっても住み良いコミュニティづくり」を目指したいと思っています。



# KECとアドバイザー派遣事業が スタートしました

この4月から、福祉医療機構（WAM）の助成を受けて「KECアドバイザー派遣事業」(\*)がスタートしました。子育て系をはじめとする福祉系の8つのNPOに対して出張型の経営支援を行う事業で、今年度のKEC事業の大きな柱の一つとなっています。

\*正式名称「子育てNPOの経営支援と仕組み作り事業」

## ◆組織の体力強化をお手伝い

NPOの多くは活動資源が十分でなく、つい目の前の活動に追われ、中長期のビジョンや計画づくりが後回しになります。そんなNPOの活動現場に継続的に伺い、小手先の改善ではなく、組織の体力・経営力そのものを強化するお手伝いをしようというものです。4～6団体に対しても、各6回前後、延べ36回ほどの「派遣」を行う予定でしたが幸い応募が多く、8団体をご支援することとなりました。

## ◆経営支援と仕組みづくりの両方を

事業の目的は3つあります。一つは、派遣先のNPOが中長期の展望と計画、つまり経営戦略を持つような支援をすること。支援先には「公的制度の外のニーズ」に対する支援団体を選んでおり、当然、その活動条件は厳しいものです。創業メンバーの尋常でない努力に支えられており、これを持続的な組織と事業にすること自体が大きな課題です。

手伝いをしようというものです。そんなNPOの活動現場に継続的に伺い、小手先の改善ではなく、組織の体力・経営力そのものを強化するお手伝いをしようというものです。4～6団体に対しても、各6回前後、延べ36回ほどの「派遣」を行う予定でしたが幸い応募が多く、8団体をご支援することとなりました。

二つめはそのような活動への支援手法の確立です。中間支援とよく言われますが、その支援手法はまだまだ未確立で、現場のNPOからは中間支援組織というのによく分からぬいという声も聞かれます。半年なり一年なり、一定の限られた時間の中でどのような支援をし、意味のある成果を挙げられるのか。一年間で「確立」までは行かないかもしれません、少しでもその手法を整理したいと思います。

三つめが、右のような「制度外」の活動について、その必要性、公益性を検証し、それが社会的に成り立つための条件・環境整備を検討し、提言すること。制度外の社会的ニーズに対しても、多くのNPOが自発的にサービス提供を行っています。それらの中には、人間としての最低限の基本的必要性（Basic Human Needs）を満たして人としての尊厳を守っているような公共性の高い活動も少なくありません。そういう活動には税財源によって支えられるべきものがありませんはずで、それをどのように区別し制度化すればいいのか、

その問い合わせの端緒を得られればと考えています。

## ◆根本的な支援から実際的な支援まで

後者の一例を挙げれば、ある団体のリクエストに応じて作業しているのは「ボランティア募集の方法の整理」。マスコミや各種サイト、ボランティア情報の集約を業務として行っている

支援の内容は、中長期計画の策定、組織体制のビジョンづくり、人材確保と多岐にわたります

が、一緒に組織の将来ビジョンを検討したり広報ツールを考えたり、さまざまな「打つべき手」を列挙した上でその優先順位を検討したりと、大きな経営計画づくりから個々具体的な事務局業務のお手伝いまでレベルも様々です。

派遣されるアドバイザーはKECの役職員（今田忠理事、八十廣子、実吉）のほか、類似の事業を過去にともに行ってきた（特活）神戸まちづくり研究所の東末真紀さん。加えて、専門的な課題については、会計＝荻野俊子さん（NPO会計支援センター）、労務＝石田信隆さん（NPO労務サポート）、資金調達＝江口聰さん（しみん基金・KOB）という強力な支援メンバーが控えています。

二月には成果報告会を予定していますので、どうぞお越し下さい。（ホームページ上でご案内します）

- ◆派遣先団体
  - (特活)こどもコミュニティケア（神戸市／保育）
  - (特活)ぴっぴ（同／保育）
  - (特活)はらっぱ（西宮市／保育）
  - (特活)ウィズネイチャー（同／野外活動・子育て）
  - (特活)リーフグリーン（同／高齢者・障害者）
  - (特活)淡路島ファミリーサポートセンター  
　まるく（淡路市／高齢者・障害者）
  - W・Sひょうご（神戸市／女性）
  - (特活)女性と子ども支援センター  
　ウィメンズネットこうべ（同／女性）

KEC事務局長 実吉威

# 「小規模保育シンポジウム」から

今号で紹介しておりますWAM事業などでKECとも関わりの深い、「JECもコミュニティケア」代表の末永美紀子さんより、2月に開催されたシンポジウムと、そこで議論された小規模保育をめぐる課題について、寄稿いただきました。

JECもコミュニティケアは、雪の降る2月に、三宮で「小規模保育」に関するシンポジウムを開催しました。ニュージーランドで小規模の家庭的保育園を運営するライチエル氏の講演のほか、「保育園を考える親の会」代表の普光院亜紀氏をはじめとして学術関係者、小規模保育園の保育者、保護者でのパネルディスカッションを行い、兵庫県議論が交わされました。

このシンポジウム開催にあたって、改めて多くの制度や課題を学びました。中でも日本では、保育集団の大きさについての研究がほとんどなく、今後のいつそうの調査や検討が必要と感じました。

## ▼1集団（クラス）あたりの基準がない

大宮勇雄氏は「配置基準だけではなく、日本では1クラスの定員の基準がないのがざらに問題」と指摘しています。12人前後を小規模クラス、24人前後を大規模として、後者では、保育者がたとえたくさんいても、子どもの比率」つまり「保育所保育

者配置基準」を調べてみたところ、なんと日本では、約40年前の69年からほとんど基準が変わつていません。同じ70年代の欧米の基準と見比べてみると、その時点ですでに日本の保育者は、アメリカやイギリスの2~4倍もの子どもたちを受けもつています。この基準に照らして認可園には人件費を含めた補助金が下りていき、かつ保育料は行政が定めた以上の額は徴収でききないので、運営側としては、手厚い保育者配置をしたくても限界がある、ということになります。

が常態化しているところも珍しくありません。

NZのライチエル氏は「家庭の健全な運営を阻む数々の要因がある現代において、こどもを健全に育成するための場所、また家庭の見本としての家庭的保育の役割は非常に大きい」、そして「私は、日本の各地で講演してきた、どの地区でも『日本では、十分な保育や教育の質を保証できる体制になつていない』という声を聞いてきました。私たちもかつて、仲間とネットワークをつくり、政府に訴えてきました。あなた方も手をつないで活動することができます」と語りました。

子どもたちの環境づくりをいつしょに語りあいませんか？

子どもコミュニティケアでは、保育研究会の定期的な実施を検討しています。ともに学び、議論しあえる仲間を募っています。

## ▼保育の課題～お説い

得られない中で自力でがんばり抜く認可外保育施設の保育者も数多く来てくださいました。こうした園は各地にあり、「小規模保育」のメリットを多くの保育現場の人が肌で感じ取つて、待機児童の解消のため

に定員125%までの受け入れが常態化しているところも珍しくありません。

た小規模園を探している親御さんは少なくありません。保育の世界でも、多様性が求められてきています。

保育制度や幼児教育に関連する要素は「子どもの人数」だけでなく、様々です。



バーナーデット・ライチエル氏

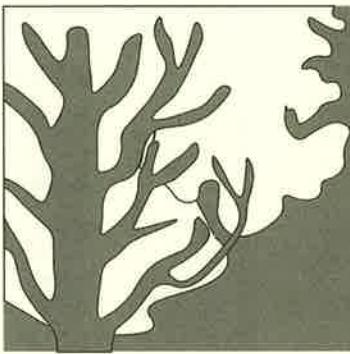
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	基準適合園
日本(2008年現在)	3人	6人	6人	20人	30人	30人	
イギリス(1991年)	3人	3人	4人	4人	8人	8人	0-1歳 97.9% 2-3歳 66.6% 4歳以上 100%
アメリカ(1968年連邦基準)	4人	4人	4人	5人	7人	7人	51%
アメリカ(1979年州基準平均)		6.6人	9.4人	11.4人	13.7人	16.5人	94%

引用文献：大宮勇雄「保育の質を高める」2006 ひとなる書房

この子どもたちの環境づくりをいつしょに語りあいませんか？

子どもコミュニティケアでは、保育研究会の定期的な実施を検討しています。ともに学び、議論しあえる仲間を募っています。

特定非営利活動法人「JECもコミュニティケア」末永まで。  
(children@k5.dion.ne.jp)  
FAX078-793-5477



# みみずく舎 だより

KECが母体となって運営しているフェアトレードショップみみずく舎。きたる9月23日、3周年を迎えます。3周年を前に店内、看板をリニューアル。特別展や仕入れ先とのコラボ企画もいろいろ実施しました。

## ☆able crafts fair。2/19~3/2

全国の作業所からステキなクラフト作品を集めて紹介しました。期間中毎日、日替わりで各作業所の皆さんのが来店され、寒い中、外で販売されたり、制作過程や苦労話を語ってくださいました。



## ☆中国農民画展 3/18~4/13



中国の青海省、上海郊外金山、西安郊外各戸県の「中国農民画」を展示販売しました。中国の農民たちによって描かれ、農村の四季折々の労働や行事、子供の遊び、身近な小動物などが主題です。素朴ななかにも大地に根ざして生活する農民たちの力強さや、生き物に対する優しいまなざしが感じられました。

## ☆ティンガティンガ展 4/29~5/25

創始者Edward Saidi Tingatinga(1937~1972)に由来するタンザニアのポップアート、ティンガティンガ。大好評だった昨年末に続く2度目の開催。今回はタンザニアのコーヒー、紅茶や雑貨も併せて展示販売しました。



## ☆KOBE発国際フェアトレード・デー参加 5/25

5月はフェアトレード月間で、国際フェアトレード連盟に加盟する世界70カ国・約350のフェアトレード団体と生産団体が一斉にフェアトレードを訴える月です。フェアトレードひょうごネットも恒例となった「北野工房のまち」でのフェアを行いました。

## ☆北タイ・カレン族の草木染め手織り布販売 6/29~7/6

タイ北部の山間民族カレン族が、村の植物で染め、織りあげた布を販売。カレン族の伝統技術の保存や女性たちの自立を支援している(財)PHD協会のボランティアグループ「ソディ」の方たちが販売にいらしてくださいました。



オープン3周年を記念して、  
9月23日から商品お買い上げ  
のお客様に「特製瓦せんべい」  
をプレゼント!  
(なくなり次第終了します)

◆営業時間 平 日 11:00~19:00

土・日・祝 10:00~18:00

◆定休日 お盆・年末年始のみ

◆ホームページ <http://mimizuku.co/>

## 佐々木康哲さん を偲ぶ



平成20年6月20日、2年近い闘病の末、佐々木康哲さんが亡くなりました。享年53歳。肩書きが嫌いな人で、紹介に困ってしめています。ですが、被災者生活再建支援法成立の陰の立役者であることは間違ありません。「震災・活動記録室」の名付け親であり初代ホームページの制作者（黄色い鉛筆の絵のトップページ）でもあつた、KECとも縁の深い故人を偲びます。

私と佐々木さんの出会いは、もちろん阪神・淡路大震災です。私が最初に加わったボランティアグループ「ちびくろ救援ぐるーぶ」に京都の仲間と訪ねて来られたのが最初の出会いです。「被災地の人々を応援する人たちを応援する」という趣旨で支援の意志があることを伝えて来られました。いくつかの支援プログラムの中、「鍋釜作戦」という提案がありました。被災者に鍋やまな板や包丁を提供し、場合によつては食材も提供し、被災者自身で食事を作つてもらおうという支援の提案でした。これは面白いということで、早速「自分で食事を作られるなら、食材と鍋釜も提供します。」と兵庫区や長田区のテント村を声がけをして廻つたことを覚えています。

最初は、応援する人たちを応援するという趣旨で被災地KOBEnに来られたのですが、（もちろんこの意志は亡くなられたのか）亡くなつてから何度の被災地でも、おつきあいされる方は普通のおっちゃん、おばちゃんです。通夜式でも佐々木さんの棺の傍には、13歳年を重ねた被災者がおられたことを付け加えさせて頂きます。

ここに紹介させて頂いた佐々木さんのお姿は、阪神・淡路大震災を機に、私が13年間おつき合いをさせて頂いてきました。ホンの一部のものでしょう。煙に巻くようなものの言い方をする人だつた。「みなま

佐々木さんは、鍋釜作戦を提案したことでも推測できました。非常にアイデアマニアであり、また戦略家でもあります。いつも痒いところに救済ぐるーぶ」に京都の仲間と訪ねて来られたのが最初の出会いです。「被災地の人々を応援する人たちを応援する」という趣旨で支援の意志があることを伝えて来られました。いくつかの支援プログラムの中、「鍋釜作戦」という提案がありました。被災者に鍋やまな板や包丁を提供し、場合によつては食材も提供し、被災者自身で食事を作つてもらおうという支援の提案でした。これは面白いということで、早速「自分で食事を作られるなら、食材と鍋釜も提供します。」と兵庫区や長田区のテント村を声がけをして廻つたことを覚えています。

最初は、応援する人たちを応援するという趣旨で被災地KOBEnに来られたのですが、（もちろんこの意志は亡くなられたのか）亡くなつてから何度の被災地でも、おつきあいされる方は普通のおっちゃん、おばちゃんです。通夜式でも佐々木さんの棺の傍には、13歳年を重ねた被災者がおられたことを付け加えさせて頂きます。

ここに紹介させて頂いた佐々木さんのお姿は、阪神・淡路大震災を機に、私が13年間おつき合いをさせて頂いてきました。ホンの一部のものでしょう。煙に巻くようなものの言い方をする人だつた。「みなま

でもこれだけでも、ご想像がつきますように佐々木さんはすように、非常にアイデアマニアであり、また戦略家でもあります。いつも痒いところに手が届くような運動を展開されます。私たちにも学ぶところが多いのですが、私たちの感性が悪く、打てば響くような反応や行動を展開しないたために、よく機嫌が悪くなることもあります。佐々木さんともありました。佐々木さんのそういう時の口癖は、「余計なことかも知らんけど、気にせん」と聞いていて。まあ、こんなアホなことをいうのもいるというのをちょっと覚えていて！」というような表現です。決して押しつけてないのですが、そういう時の一言は何故か耳にこびりついているのです。おそらく大変シャイな人なのでしょう。ストレートに表現することが苦手なようでした。佐々木さんは何処の被災地でも、おつきあいさる方には普通のおっちゃん、おばちゃんです。通夜式でも佐々木さんの棺の傍には、13歳年を重ねた被災者がおられたことを付け加えさせて頂きました。

「佐々木さん」とは何者だったのか。亡くなつてから何度も、小さな、いろんな場面を思い出す。私と佐々木さんの関わりはそれほど濃くもなかつたはずなのに。冒頭にあるように記録室時代にもつともよく関わりがあつたが、記録室たはづなのに。冒頭にあるよに長生きせんでもええし」と言つたのを、もつと厳しく咎めればよかつた。でもあれから1年半、もうじゅうぶん闘つたのかな。おつかれさまでした。「太く短く生きました」なんてカッコよすぎるけど、それもええかっこしいの面目躍如か。「な、ちゃんと計画通りや」とか何とか、いつも声が聞こえる気がする。

被災地NGO協働センター  
代表 村井雅清

「佐々木さん」とは何者だったのか。亡くなつてから何度も、小さな、いろんな場面を思い出す。私と佐々木さんの関わりはそれほど濃くもなかつたはずなのに。冒頭にあるように記録室時代にもつともよく関わりがあつたが、記録室たはづなのに。冒頭にあるよに長生きせんでもええし」と言つたのを、もつと厳しく咎めればよかつた。でもあれから1年半、もうじゅうぶん闘つたのかな。おつかれさまでした。「太く短く生きました」なんてカッコよすぎるけど、それもええかっこしいの面目躍如か。「な、ちゃんと計画通りや」とか何とか、いつも声が聞こえる気がする。

KEC事務局 八十庸子



## KEC／みみずく舍カレンダー

2008. 2. 1~2008. 8. 31

- 『<<<プロジェクト>>>』

2/6.3/19.6/5 作業所サポートミーティング(八、和)

2/15.3/14.3/26 アドバイザーミーティング(実、八)

2/19.3/4 作業所サポート派遣(夢ふうせん;八)

2/19 アドバイザー派遣(ぱっぴ;実)

2/20.3/5 作業所サポート派遣(ワークホーム兵庫;八)

2/27 和太鼓教育研究所入居

2/28 作業所サポート派遣(七つの海;八)

2/29 アドバイザー派遣(福祉ネット星が丘;八)

3/7 作業所サポート派遣(ゆとり作業所;和)

3/11.4/1.17.28.5/13.15.31.6/8.19.7/3.8/5  
ひょうごん福祉ネットミーティング(実)

3/14 アドバイザー報告会(実、八)

3/25 パソコンを弾く研究会入居

4/1 インパクト関西、郵便箱サービス利用開始

4/9 「NP0のための会計・労務相談」開始

4/11.21.30.5/26.6/11.7/19 KECアドバイザー事業研究会(WAM助成;今田、江口、荻野、東末、実、八)

4/20 オノボット退去

5/31 メコンウォッチ退去

6/7 NP0×ボランティアマッチング会(実、八)

6/8 福祉ネット設立記念講演会「地域に必要なもう一つの公共・NP0」(三宮;実、八、山田、興津)

6/16.7/ KECアドバイザー派遣(こどもコミュニティケア;実)

6/24 みみずく編集会議(諭訪、実、八)

7/4.22.8/26 KECアドバイザー派遣(リーフグリーン;実)

7/9 KECアドバイザー派遣(ウインズネットこうべ;八)

7/15 福祉ネット学習会(実、八)

7/16.8/27 KECアドバイザー派遣(W.Sひょうご;八)

8/2 セミナー「NP0の自主財源を強化する7つの方法」(国際交流基金日米センター共催)

8/22 作業所サポート派遣(ワークホーム兵庫;八)

『<<<学び支援>>>』

2/2 NP0未来塾②(和歌山;実)

2/16 福山市ボランティアセンター視察受け入れ(八)

2/20 JICA研修受け入れ(あいあいネット;実)

2/29 NP0実務講座(鮆江;実)

3/1 NP0えちぜん市民活動連続講座(実)

3/25 東京ボランティア・市民活動センター視察受け入れ(実、山田、興津)

6/23 市民活動支援センタースタッフ研修(横浜;実)

6/25 神戸学院大学ボランティアプロジェクト(八)

7/12 伝えるコツ(松江;実)

『<<<ネットワーク>>>』

2/13.4/12 ひょうごんテック運営委員会(実)

2/21.3/13.7/7.7/15 NP0と行政の協働会議・委託部会(実)

2/23 小規模保育シンポジウム(実)

2/23 助成財団シンポジウム(八、興津)

3/7 法人化相談に関わる意見交換会(実、八)

3/17.5/9 日本NP0センター理事会(実)

3/19 子育て支援会議(実)

3/26 県長期ビジョン委員会(実)

4/3 NP0広報力強化委員会(実)

4/16 NP0議員連盟世話人会・世話団体会(実)

4/22 「いとしの能登 よみがえれ」出版記念サロン(アト・サポートセンター・神戸;実、八)

4/26 西元町インフィオラータ(花絵づくり、諭訪、山田、興津、八、実)

5/15.6/12.8/5 HYOGON運営委員会(実)

5/18 ひょうごんテック総会(実)

5/22 ぼたんの会(実、興)

5/28 NP0/NGO税・法人制度改革連絡会(東京;実)

6/15 神戸市政策提言会議(実)

6/27 HYOGON総会(実、八)

7/12 NP0税務研究会(八)

7/29 CSRセミナー(実)

8/1 公益法人制度学習会(東京;実)

8/5 HYOGONカフェ(藤田、中原)

8/19 NP0のファンデレイジングを考えるつどい(実)

8/30 こどもコミュニティケア総会(実)

『<<<みみずく舎関連>>>』

2/5.3/5.4/7.5/28.6/5.7/7 改革の日(和、中、山田、近藤)

2/6.3/7.4/12.5/13.6/10.7/4.8/8 取締役会

2/10 作業所スキルアップ講座(和)

2/25.3/24.4/21.5/12.6/16.7/17 志民ファンドコングサルタント派遣(今田、和、実、八)

2/20 新聞折り込みチラシ配布

3/16 プロダクト100(作業所モノづくり展示会;和)

3/25.4/15.6/19.7/18 フェアトレードひょうごネット運営委員会(和、上村、中原)

3/31 棚卸し(和、実、八、上村、興津、狩野、近藤、山田、山崎)

4/22 FMわいわい「ふれてあれこれアイtoアイズ」にて「作業所craftsカタログ」開始(和)

5/20.6/4 ショップドクター来店(神戸商工会議所から;和、実、八)

5/24 通常総会

5/25 KOBE発国際フェアトレード・デー(FTひょうごネット@北野工房のまち;和、中)

6/14-15.7/12-13 内装、看板改裝工事

6/21 キャンドルナイト・ライブ

7/22 AWEP新作検討会議(和、中原、櫻井)

8/13-15 夏休み

8/13-19 神戸販急出店(和、中原)

8/24 アイハウス夏祭り出店(和)

『<<<事務局関連>>>』

2/9.3/8.4/5.5/17.6/7.7/19.8/30 今田塾

2/19 ボランティア近藤仁美さん初登場

2/20 NP0法人勉強会(八、山田、興津)

2/27 インターン上村めぐみさん初登場

3/31 スタッフ懇談会(みんな)

4/1 スタッフ中原寿子さん勤務開始

4/3 運営会議

4/30 上村さんインターン終了

5/13 学生インターン櫻井亞莉沙さん初登場

5/27.8/21 理事会

6/21-7/5 ボランティア藤田研さん登場

8/1 スタッフ藤田研さん勤務開始

8/6 会計監査、税務申告書作成(飛田・宮崎両監事;実、八)

8/12-16 夏休み

8/31 興津さんインターン終了

会員のみなさま

「ご入会・ご継続ありがとうございます！」  
みなさまからのお期待に応えるべく一同努力してまいります。  
今後ともよろしくお願ひいたします。（★新規、○=2口。敬啟略）

贊助會員

四  
半

寄付

四

元月

静岡県  
（特）静岡県東部パレット  
市民活動ネットワーカー  
神戸市  
(特)拓人こうべ  
(特)日本障害者スポーツ射撃連盟  
(特)マザーズサポート一協会  
みなと元町タウン協議会  
加古川市  
NPO労務サポート

四三

埼玉県 西川正  
大阪府 千葉武  
奈良県 桂良太郎  
神戸市 神田栄治  
浜崎 利澄  
川西市 沢井  
美登里 明石市

★ 大阪 上賀茂 尼崎 稲美 芦屋 藤原 三神

- 2/5.3/5.4/7.5/28.6/5.7/7 改革の日(和、中、山田、近藤)  
2/6.3/7.4/12.5/13.6/10.7/4.8/8 取締役会

江上神三蘆稻尼崎大距草上★志

- 岡明★東田林康野崎西山浪越戸田杉田小林  
明石市泉屋根山熊本県福島県広島県

西宮市  
◎(特)古代遺跡

★グリーンランドプロジェクト  
（特COM総合福祉研究所）  
（特女性子ども支援センター）  
（特知的障害児・療育サポート）  
ウインズネット・こうづ  
センター・くれよん

未永 美紀子  
日埜 昭子  
村井 雅清  
松本 まゆみ  
宮崎 悅子

◆KECの新しい事業年度が7月に始まりました。「みみづく」も引き続き事業の一環として発行していく予定です。読者の皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。(すわ)